

情報通信審議会 情報通信政策部会
放送コンテンツの製作・流通の促進等に関する検討委員会(第2回)
ワーキンググループ合同
議事概要

1 日 時

平成28年11月4日(金) 14時00分～

2 場 所

TKP赤坂駅カンファレンスセンター ホール14A

3 議 事

- (1) 放送コンテンツの製作・流通の促進検討WGの設置・運営について
- (2) 「視聴環境の変化に対応した放送コンテンツの製作・流通の促進方策の在り方」について
- (3) 事業者プレゼン
 - ① テレビ東京
 - ② 東京メトロポリタンテレビジョン
 - ③ フジテレビジョン
- (4) 意見交換
- (5) その他

4 出席者(順不同、敬称略)

【構成員】(委員会)

村井純主査(慶應義塾大学)、新美育文主査代理(明治大学)、近藤則子(老テク研究会)、谷川史郎(野村総合研究所)、内山隆(青山学院大学)、河島伸子(同志社大学)

(ワーキンググループ)

相子宏之(TBSテレビ)、石澤顕(日本テレビ放送網)、近藤宏(日本放送協会)、清水賢治(フジテレビジョン)、廣瀬和彦(テレビ東京ホールディングス)、長谷川洋(テレビ朝日)、木村信哉(日本民間放送連盟)、西山彰(衛星放送協会)、吉本孝司(日本ケーブルテレビ連盟)、設楽哲(電子情報技術

産業協会)、土屋円(放送サービス高度化推進協会)、秋山健二(IPTVフォーラム)、堀義貴(日本音楽事業者協会)、高杉健二(日本レコード協会)、世古和博(日本音楽著作権協会)、土橋寿昇(日本電信電話)、小林文記(ソフトバンク)、宇佐見正士(KDDI)、別所直哉(ヤフー)、岩浪剛太(インフォシティ)、宮下令文(日本動画協会)、清水哲也(全日本テレビ番組製作社連盟)、澤田隆治(日本映像事業協会)、遠藤誠(全国地域映像団体協議会)、桜井徹哉(博報堂DYメディアパートナーズ)、石川豊(電通)
(オブザーバ)
俵幸嗣(文化庁)、平井淳生(経済産業省)

【総務省】(情報流通行政局)

南俊行(局長)、吉田真人(審議官)、齋藤晴加(総務課長)、鈴木信也(放送政策課長)、久恒達宏(放送技術課長)、藤田清太郎(地上放送課長)、玉田康人(衛星・地域放送課長)

【事務局】豊嶋基暢(情報流通行政局情報通信作品振興課長)

5 配付資料

資料2-1 放送コンテンツの製作・流通の促進検討WGの設置要綱

資料2-2 放送コンテンツの製作・流通の促進検討WG構成員名簿

資料2-3 視聴環境の変化に対応した放送コンテンツの製作・流通の促進方策の在り方について
(情報通信審議会への諮問概要)

資料2-4 放送番組の視聴に係る環境の変化と放送事業者の取組について

資料2-5-1 テレビ東京ビジネスオンデマンドにおける「NEWSモーニングサテライト」同時配信サービスについて(テレビ東京)

資料2-5-2 TOKYO MXの取組について(東京メトロポリタンテレビジョン)

資料2-5-3 Hybridcastを用いた現行地上HD放送と同期した4K配信の実証実験について
(フジテレビジョン)

資料2-6 今後の進め方について

参考資料2-1 情報通信審議会 諮問書(写)

参考資料2-2 委員会の設置

参考資料2-3 委員名簿

6 議事概要

(1) 開会

- 事務局より、構成員の紹介がされた。

(2) WGの設置、運営について

- 事務局より、資料2-1、資料2-2に基づいて、WGの設置、運営などについて説明がされた。
- 資料2-3、資料2-4に基づいて、諮問の趣旨などについて説明がされた。

(3) 事業者プレゼン

- テレビ東京より、資料2-5-1に基づいて、テレビ東京の取組について説明がされた。
- 東京メトロポリタンテレビジョンより、資料2-5-2に基づいて、東京メトロポリタンテレビジョンの取組について説明がされた。
- フジテレビジョンより、資料2-5-3に基づいて、フジテレビジョンの取組について説明がされた。

(4) 意見交換

- 【河島構成員】 テレビ東京の齊藤さんにお伺いしたいのですが、この同時配信なさっている「NEWSモーニングサテライト」については会員登録すら不要で、課金は今はしていないということですよね。
- 【テレビ東京】 はい、そうです。
- 【河島構成員】 将来的にはというか、これこそは課金しても一定のニーズが強くあるタイプの番組ですよね。
- 【テレビ東京】 方針についてはこれから検討していきます。当然、この「モーニングサテライト」の同時配信について、有料課金にするという選択肢はあり得ると考えています。先ほど申したとおり、視聴数も上がってきたとはいえ、それほど膨大な視聴数になっておりませんので、もう少し様子を見た上でどのような形でビジネス化していくのか考えたいと思っています。この番組単体の配信ということだけで

なく、私どもの配信事業全体の中での位置づけもあるかと思えます。まだ全然結論は出ておりません。

- 【河島構成員】始まってまだ1年ですのでわからないとは思いますが、傾向として番組視聴率はよくご存じでいらっしゃると思えますし、こちらの見ている人の絶対数、配信数については控えたい、公表はされないということで結構ですが、その視聴率と比べてどういう感じですか。
- 【テレビ東京】まず1つは、番組自体がこういった早朝の番組、非常にある意味ニッチな番組ですので、正直申して視聴率は大体1%前後という番組で、これが始まって視聴率が特段大きく下がったとか上がったとかいうことはございません。所詮、ビジネスオンデマンドは有料会員が5万人に過ぎず、「モーニングサテライト」は無料で見られるとはいえ、全体の視聴数からいうとnegligibleで、まだまだほんとうにごく一部の方がごらんになっているという段階でございます。
- 【河島構成員】わかりました。どうもありがとうございました。
- 【谷川構成員】フジテレビのご説明の中で、14ページ目に運用面ということで視聴測定方法について今後考える必要があるというご指摘が挙げられているのですが、もう少し具体的にどんなことを意図されたのか、ご説明いただけますか。
- 【フジテレビジョン】課題として挙げたところまでなので、具体的にどうあるべきかまでは、まだ検討が至ってはいないです。放送と同じものを流しているときには、現状と同じ仕組み（音声でマッチング）で測定できますが、例えばCMなどを別のものに差し替えた場合は、何かしら別の方法が必要となります。技術的な方法としては、ネットにつながっているものでございますので、ビーコンタグといわれる視聴測定用の信号をサーバーに送る実施できるかと思えますが、そういったことを課題として挙げさせてもらったものでございます。
- 【谷川構成員】今の方法だと視聴率がまだ取れないという課題と理解していいですか。
- 【フジテレビジョン】放送と違うものを送った場合には、それを測定する方法が今の方法ではないということです。
- 【近藤（則）構成員】MX様のプレゼン、とても感銘を受けました。将来私たちが

テレビを見なくなるのをご心配していらっしゃると思いますが、人生100年時代になっておまして長寿化が進行しておりますので、ぜひとも高齢者にも引き続きテレビを見られるようにやさしいインターフェイスを心がけていただけたらよろしいのではないかと、これは希望いたします。

今、エムキャスのご紹介があって、早速使ってみたのですが、ほんとうに素晴らしいと思いました。私たちのスマホ講座でもぜひ練習して勉強したいと思いますが、少し惜しかったのが、今とても注目されているコンテンツは都議会ではないかなと思うので、都議会のライブがアクセスしやすいようなインターフェイスになっているとうれしいなと思いました。私たちが何かお手伝いできることがありましたらぜひご協力したい、素晴らしい試みだと思いました。

2つ目は、テレビ東京さんのご発表はビジネスが中心だったと思うのですが、私は御社の温泉情報番組の非常にファンでございまして、ぜひこれを全国に広げていただきたい。dボタンを押すといろいろな詳細情報や応募できたり、とても素晴らしいといつも感動しております。これは日本PRにもなると思いますので、ぜひインターネットで世界に配信していただけるようなコンテンツに育てていただけたらどうかといつも思っていました。惜しいかなと思ったのは、昨夜、老舗のお土産番組という、とても楽しい番組があって、見ていると欲しくなるわけです。テレビですから、一斉に皆さんが申し込まれたらしくて「アクセス不能」と表示されて、なかなか注文できませんでした。今までもタレントさんが紹介する、いろいろな番組でそういったことはトラブルとしてあったと思うのですが、それこそ放送と通信の連携で全国の地方の小さなお店の人にもせっかくきたビジネスチャンスを見逃さないように、通信サービスの方と上手に連携していただけて、アクセスが殺到してもエラーにならないような工夫をしていただけるとすごくうれしいと思いますので、ぜひよろしくお願い致します。

- 【テレビ東京】わかりました。
- 【東京メトロポリタンテレビジョン】エムキャスで今、都議会を配信できるように準備をしております、弊社担当者と東京都様にて調整中でございます。引き続きよろしくお願い致します。
- 【内山構成員】齊藤さんと服部さんに関しては、著作権絡みのことでご質問したい

と思います。プレゼンを聞いていると、とにかく手間がかかる、時間がかかるというニュアンスは伝わってまいりましたが、こういう政府が主導している場面ですので、何か究極の問題として、今後ネット配信における権利処理においてはあるのか。それが民間ベースで解決できるところと、民間ベースでは難しいという部分。お二人とも基本的には利用者側のご意見になると思いますけれども、その部分をまずお聞かせいただきたいというのが1点目です。

それから、服部さんとフジテレビさんにお聞きしたい点は、もっと技術の部分でして、電波とネットで同時に送ってサイマルを取っていくというお話だったのですが、これはフレーム単位でサイマルが取れているという理解でいいのかどうか。秒単位とかそういうレベルではなくてフレーム単位で取れているかどうかという点と、それから、ご説明を聞いていても私の知識が足りなくてわからなかったのですが、その同期というのは結局端末で同期させているという話なのか、あるいは送り手側で同期させているという話なのか。その辺が私は理解できなかったもので、教えていただければと思います。

- 【テレビ東京】権利関係ですけれども、私どものような民間の放送局、権利関係の団体の方々などいろいろなお話しをさせていただきながら進めていくべきことだと思っています。個別具体的な条件であるとか、そういったことを民間同士で互いのプラスになるような形で決めさせていただきつつ、大枠みたいなものに関しては、時代の変遷に応じて法制度をはじめとして政府や国にやっていただかないといけないところが多々あると思います。民間の技術的な進歩も含めて個別的な事例や経験値といったことを積み上げていった上で、大枠をこうしていこうという方向が出てくると、一番健全かなと思っています。
- 【東京メトロポリタンテレビジョン】先ほど11ページにも書かせていただきましたけれども、許諾をいただくのに弊社は実際エムキャスでほとんどの番組を、配信を頑張ろうとやらせていただいたときに、おそらく時間さえあればほとんどの番組に関しては権利許諾は許してはもらえないという権利団体様はいらっしゃらないと存じております。私どもはそう思い、2年前にこれを考えて実施したところ、少しなめていたなど。放送を製作すること自体にあまりにも慣れ過ぎておりまして、権利許諾に関するスムーズさ、放送を実際に行う上でのスムーズさが、かなりよくできているのですね。日本テレビ様、NHK様、フジテレビ様、キー局様たち諸先輩

方が、何十年にもわたって築き上げられたこの放送というシステムにおける権利許諾の流れがあまりにもスムーズで、それに比べて、現在行っているネット同時配信では、改めてインターネット用の許諾を取り直す必要があり、この部分を『配信用の許諾を取るための時間』と書かせて頂きましたけれども結局は、もう一回作業をしなければいけませんでした。弊社の場合133名でレギュラーの番組も、実はその当日持ち込まれてその番組に出演する方も前日の夜に決まったり、もしくは急に演者様が代わったり、音楽も差し変わったり、結構突発的な流れがかなりあるにもかかわらず、それに権利許諾を処理していくのについていけないのですね。そのために別の組織をもう1個立ち上げるのかという議論もあったのですが、それをするだけの放送局をもう1個立ち上げるのと同じくらい、それには労力がかかりそう。だとすると、この労力をなるべく減らすためにはどうしたらいいかということで、133名でまずはやってみようということやらせてはいただいております。この労力をどれだけ減らすことができるか。今の放送と同じような、逆にもっと言うと、今の放送の処理のみしていれば、同時配信ができればうれしいなと考えております。

引き続き、もう一点目。4Kでフレーム単位でとれているのか、秒単位でとれているのかという話です。うちの件に関しては、秒単位です。4Kボタンを押した後、大体2秒ぐらいで切り替わるのですが、もともと2秒で切り替わるもので、フレーム単位で合わせてもほとんどわからなかったということで、もういいと。大体秒単位で時間を取り分けて、秒単位で命令を出すという形にしております。自分が見ている気持ちいい切り替えの時間を、例えば、もう少し2秒前に命令を出そうとか、そういった工夫を出しながら設定はしました。うちの場合です。

- 【フジテレビジョン】 サイマル単位のところでございますが、切り替えた際に番組が重複しない程度を目標にしました。ほぼほぼ一致していますけれども、フレーム単位というほどではなく、秒程度とご理解ください。

送り手側から放送で時刻のメッセージを送信し、プレイヤー側でそれを利用して再生同期を取るという仕組みで実現しております。

- 【谷川構成員】 テレビ東京の資料の10ページ目の最後に、今までテレビ東京を視聴されていないところからのアクセスが増えましたというコメントと、フジテレビさんの8ページ目のところで、デモンストレーションの実験が、提供エリア、関東

広域とフジテレビ放送エリア内となっているのですけれども、キー局が全国に同時放送した場合のローカル局への経営上のインパクトはどんなことが想定されるのかとか、その辺の事前検討でいろいろされているようなことがもしあればお聞かせいただけますでしょうか。

- 【テレビ東京】ビジネスオンデマンドはこの「モーニングサテライト」の同時配信を除きますと、基本的に有料課金制を採っております。当然、このサービスを始めるときにも、私どもは系列各局にこういったサービスを始めますということを事前に詳細に説明をした上で理解をもらってから始めております。ビジネスオンデマンドの現状は、有料会員が5万人を超えたところでございますので、テレビ東京本体を含めて、系列各局への視聴率を含めた影響は少なくとも現状や近い未来においてそれほど大きなインパクトを持つものではないと思っております。例えば、先ほど申し上げた、池上彰さんの参院選の特番を臨時で配信するときも、系列各局には事前に説明をした上で、了解を取った上でやっております。ただ、将来的に同時配信やオンデマンドの事後の見逃し配信が広がっていけば、地方局、系列局の経営に多かれ少なかれインパクトが出てくる可能性は当然あるかと思えます。私どもは、そういった点についても勉強を進めています。例えば、アメリカ等の事例で言うと、中央の放送局が、地方局に対して保証料のような形で一定のお金を支払っているという事例もあると聞いております。私どもがこういった形でどこまでこのビジネスを広げていくかということも、まだ結論は出ておりません。全く検討の途上で、いろいろなことを勉強しながらやっているということですので、そういったいろいろな海外、特に欧米の事例等も勉強していきながらやっていかなければいけないことだと考えております。
- 【フジテレビジョン】私どもの取組は、4Kテレビでしかもハイブリッドキャスト対応のものを対象にしており、現時点ではまだ数が少なく大きな影響はないですが、今後普及してくると重要な課題になるかと思っております。12月の実験につきましては、放送を起点に起動するハイブリッドキャストを用いましたので、フジテレビの放送が受信できる関東広域圏に限定した形で実施したものでございます。
- 【岩浪構成員】テレビ東京さんと東京MXさんに質問ですけれども、テレビ東京さんでは7ページ目、それから、MXさんでは9ページ目、いずれにしても、このフ

タ処理、マスクのところですか。これも調べていないかもしれませんが、わかる範囲で結構ですけれども、ユーザーが使用していてこの画面が出てしまったときのドロップ率、あるいは何秒とかどのくらいで利用をやめてしまうかといったデータなどがあるようでしたら、もしよろしければ教えてください。

- 【テレビ東京】 済みません、ごさいません。ただ、こういった差し替えのフタというのは、ほかのオンデマンド配信しているものでもございまして、これがあまり多いと若干クレームと言いますか、「多過ぎるよ」というメールでお叱りが届いたりしたことはございます。
- 【東京メトロポリタンテレビジョン】 こちらの計測自体はしていないのですが、この画面が出たときの反応自体は弊社で調べておりまして、実はこの9ページのように猫を出しておりまして、私も飼っているのですが、猫好きなチームが多く、成年向けのアニメの場合、猫が比較的好まれておりまして、この猫をたまに変えていたりすることによって、Twitterなどではそのことが逆に話題になったりしているということだけは報告させていただきます。
- 【村井主査】 事務局の説明での前提条件が変わったという話から、いろいろな実験を行った際の課題までを本日発表していただきまして、権利処理に関してもいろいろなご質問もいただきましたけれども、今日のところは課題出しまでということで、また権利者関連の方も構成員としてご参加いただいておりますので、その議論も今後進めていくことができるかと思えます。

背景について、年齢別ということが先ほどの近藤さんのお話にもありましたけれども、若年層がテレビを離れつつあるということがあります。一方、小学校では全員が電子教科書でタブレットを使う時代が迫っておりますので、そうしますと子供たちは自動的にと言いますか、スマホやタブレットに触れるということです。既に実験を行っているところがありますけれども、現状、小学校1年生で7割ほどがタブレットやスマホを経験しており、そこからの出発と伺っておりますので、2020年には大分その割合も増えてくるだろうと思えます。そういう意味でも、今日ご説明いただいたよりも急速に、例えば2020年にはまた変わっているという状況で、非常にダイナミックな展開の早さがあるのではないかと思います。

また、本日は実験の中での技術的なこともかなり指摘していただきました。コンテ

ンツデリバリーネットワークや、マルチキャストを利用していくということで、我が国はマルチキャストでの同時再送信、リアルタイム放送の送信を非常に大規模に行っているほぼ唯一の国ではないかと思えます。そのための技術に対するチャレンジや試みがされていることでもあります。一方では、インターネットの世界での、強いて言えばアカマイのような会社が大変大規模なコンテンツデリバリーに関する体制を整えているところでございまして、こういったことがどういうインパクトを持っているのかという問題がございまして。放送事業の中でのコストの問題、それから、一番大きいのはスケールの問題ではないかと思えます。本日はご紹介いただいた実験はまだスケールが小さい段階での実験だと思えますけれども、放送ですからこれが最終的に非常に大きくなると思うと、先ほど近藤さんがご指摘されたように、買い物をしようと思ったらパンクしてしまったという話も副次的には出てまいります。そもそもデリバリーそのものがどれだけスケールするのかということも、特に高解像度のリッチなコンテンツになりますと出てくるだろうということでございまして。

また、テレビ側のスペックも、ハイブリッドキャスト対応の4Kの新しいテレビにこれだけの力があると言っても、対応していただいているテレビとそうでないテレビがあるようでございまして。そういう意味では、J E I T Aの方には参加していただいておりますけれども、こういった普及しているテレビの機器の能力も、議論の範疇に入れていく必要があるかと思いました。

いずれにしても、権利処理を含めまして大変幅の広い議論をしていくことになるかと思えます。先ほども申し上げましたが、ぜひ構成員の皆様には、お気づきの点、あるいは、これから議論していくためにこういう課題が必要ではないかという点も事務局にお伝えさせていただきたいと思えます。視聴率はどうなるのかという谷川さんのお話も、視聴率そのものの考え方やそのための可能性、またはそういった先行しているようなサービスでの考え方、つまり、どれだけの方が見ているかという数字のはじき方も、技術的にたくさんの新しい方法が導入されているようでございまして。そういったことも調べていただいて、構成員の方が理解しやすいようにしていただけるよう事務局にもお願いしたいと思えます。

(5) 閉会

- 事務局より、資料 2 - 6 に基づいて、今後の進め方について説明がされた。

以上